

関連項目：教育活動プラン④

ボランティア活動を通して人とつながる喜びを味わう

目的

本校の児童は、小規模校のために子ども同士のつながりが強い反面、広がりには欠ける傾向が見られます。そこで、地域とのつながりを持ち人に役立つ活動の一環として、校区内にある施設やお年寄りとの交流を中心にしたボランティア活動に取り組むことにしました。

内容

● ニノ宮ふるさと祭りへの参加

① 東日本大震災への募金活動（4月 4年生）

毎年、4月29日に校区で開催される「ニノ宮ふるさとまつり」に全校生が保護者と一緒に参加し、茶畑を巡るロードウォークの後、茶業組合の広場で開催されるイベントに参加しました。鼓笛演奏（4～6年）と共に、4年生が東日本大震災に対する募金活動を行い、集まったお金は、三豊市を通じて福島県に送金しました。



【募金を呼びかける4年生】

● 社会福祉施設（高瀬荘）との交流活動

① 高瀬荘納涼祭への参加（8月 5・6年生）

学校近郊にある知的障害施設との交流活動の一環として、夏休み期間中に5・6年生が参加し空射矢の踊りを披露しています。その他、図工の作品展への出品やバザーにも参加し、交流を深めることができました。

② ふれ合い交流活動（2月 2・5年生）

毎年2月に、2・5年生が訪問して高瀬荘との交流を行っています。残念ながら本年度は、交流日当日になり、2年生に発熱等での欠席が見られたために、5年生だけの参加となりました。劇を披露したり、施設を参観させていただいたりしました。この交流会や見学を通して、高瀬荘のみなさんの力強く生きていることのすばらしさを発見しました。



【劇の発表】

● 独り暮らしのお年寄りとの交流

① 年賀状書き（12月 5・6年生）

社会福祉協議会から頂いた年賀状を5・6年生が全員で分担し、学年ごとに創意工夫を凝らした年賀状を作成し、年末に投函しました。お年寄りの中には、わざわざ学校宛にお返事をくださる方もあり、ふれあいを実感しました。

② ふれ合い友愛訪問（12月 5・6年）

冬休みに入った直後、民生委員・福祉協力員の方と一緒に自分の自治会に住む独り暮らしのお年寄りを訪問し、長生きの願いを込めた写真立てをプレゼントしました。（写真 右）



③ お正月の紅白餅届け（1月 5・6年）

ニノ宮ふるさとの方々に、田植えから収穫まで手伝っていただきもち米を秋に収穫しました。ふるさとの方々の参加の下、収穫したもち米を使って餅つきを行い、赤・白・緑（ヨモギ餅・お茶餅）を作り、その日の帰りに自治会毎に手分けして、近くに住んでいるお年寄りの方に配布しました。

成果

学校生活の中だけでは、相手に喜んでもらうための活動や奉仕活動等の実践の機会が少ないです。しかし、校外に出て実際に体験活動を行い、相手から生の声を聞くことで本当の喜びが味わえたと思います。来年度も、同様な活動を推進していく予定ですが、もう少し児童が前面に出て活躍できるような場の工夫と、普段からの交流を深める場や機会を増やすことが大切であると考えます。